HUE RISE
北海道教育大学　へき地・小規模校教育研究センター（通称：へき研センター）
Hokkaido University of Education Research Institute for Remote and Small School Education（aka HUERISE）
令和４年１０月２５日発行　第１１５号

へきけんニュース

ホームページ　https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス　kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291　FAX 0154-44-3292

背景は北海道教育大学旭川校

へき地・小規模校教育推進講演会

を開催します！

北海道教育大学へき地･小規模校教育研究センター

　へき地・小規模校教育研究センターでは、文部科学省教育人材政策課長小幡泰弘氏をお迎えし、へき地・小規模校教育推進講演会を以下のとおり予定しています。詳細は当センターのホームページでお知らせします。文科省の政策を知る貴重な機会ですので、ぜひご参加願います。

へき地・小規模校教育推進講演会

少子化・小規模校化時代の学校教員育成政策

－令和の日本型学校教育と教師の養成・採用・研修－

主　　催	北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
共　　催	北海道教育委員会、全国へき地教育研究連盟、北海道へき地・複式教育研究連盟
開催日時	令和４年１２月９日（金）１５：００～１６：５０
講　　師	文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長　小　幡　泰　弘　氏
参加方法	対面型及び同時双方向型（Zoom）のハイブリッド
対面型会場	北海道教育大学旭川校第１会議室
申込期限	令和４年１１月３０日（水）まで
お申込み・お問合せ先	北海道教育大学教育研究支援部連携推進課（担当：小林） Tel：011-778-0942　Fax：011-778-8376　E-mail：crc@j.hokkyodai.ac.jp

令和４年度日本教育大学協会全国研究集会を開催しました。

北海道教育大学へき地･小規模校教育研究センター

へき地・小規模校教育分科会においても全国のへき地教育の状況を交流

2022年度の日本教育大学協会全国研究集会は、北海道教育大学を準備校として、10月1日にオンラインで開催されました。この中のへき地・小規模校教育分科会では、14本の報告がありました。へき地・小規模校の存続とあり方については、現在文科省の内部でも検討が進められているようですが、今後小規模校化の問題は、地方においては避けて通れない問題となっています。全国的な情報交換を発展させるために、次年度の教大協研究集会においても、全国の大学から積極的にご発表を予定して頂ければ幸いです。

令和４年度日本教育大学協会研究集会プログラムより抜粋 ①

【第４分科会】A

へき地・小規模校教育

【司会】　越川　茂樹（北海道教育大学　教授）
中島　寿宏（北海道教育大学　准教授）

時 間	発表番号	発 表 題 目	発 表 者	所 属
13:00～13:20	401	へき地・小規模校の教育の充実に向けた遠隔教育の可能性 －北海道の小・中・高等学校の実践から－	○赤間　幸人	北海道教育大学教職大学院（札幌校） 特任教授
13:20～13:40	402	へき地・小規模校を想定したオンラインの活用による特別活動の実践	森　健一郎 ○芳賀　均	北海道教育大学釧路校　教授 北海道教育大学旭川校　准教授
13:40～14:00	403	へき地小規模小学校と都市部通常規模小学校を繋いだ遠隔交流体育授業実践の効果と課題	○中島　寿宏 河本　岳哉 籾山　修斗 梅村　拓未 高瀬　淳也	北海道教育大学札幌校　准教授 北海道教育大学附属札幌小学校　教諭 足寄町立螺湾小学校　教諭 北翔大学短期大学部　講師 北海道教育大学旭川校　准教授
14:00～14:20	404	へき地小規模小学校２校による遠隔合同体育の事例研究	○高瀬　淳也 西嶋　健悟 籾山　修斗 梅村　拓未 中島　寿宏	北海道教育大学教育学部　准教授 新得町立新得小学校　教諭 足寄町立螺湾小学校　教諭 北翔大学短期大学部　講師 北海道教育大学教育学部　准教授
14:20～15:20	（休　憩）			
15:20～15:40	405	持続可能な社会の創り手を育む総合的な学習の時間－「自分らしさが地域に活きる」北海道U中学校における「地域活性化プロジェクト」－	○宮前　耕史	北海道教育大学釧路校　准教授

15:40～16:00	406	へき地小規模校における理科教育に関する教材・教具支援を図るためのシステム開発の研究	○境　智洋	北海道教育大学教育学部　教授
16:00～16:20	407	ICT を使った授業実践に関する一考察(その２) －小規模校教育において－	○佐伯　英人 阿濱　茂樹	山口大学教育学部　教授 山口大学教育学部　准教授

第4分科会A へき地・小規模校教育をふりかえって

第4分科会A司会者

越川　茂樹（北海道教育大学釧路校）

第4分科会Aの前半はICTを活用した遠隔教育、後半は地域の特性や学校の実情を踏まえた実践に関する研究の発表がありました。

前半最初に北海道の小・中・高等学校の実践から遠隔教育の可能性に関する報告が赤間氏（北海道教育大学教職大学院札幌校）からなされました。続いて芳賀氏（旭川校）から、オンラインを活用した「6年生を送る会」と小学校と大学部活動の交流活動を手がかりに、実践上の工夫と教育的効果が報告されました。さらに中島氏（札幌校）から遠隔交流体育授業における適正規模校の学習効果、高瀬氏（旭川校）からへき地小規模校2校による遠隔合同体育の学習効果に関する報告がありました。以上の発表を通して、とりわけ遠隔システムを用いた「交流」における対面のそれとは異なる経験の意義が示唆されました。それは、何かを伝えたり、表現したりする上で一層の気配りが必要となることです。こうした点を踏まえた教育の可能性に関する研究の積み重ねが望まれましょう。

後半では、北海道の中学校における単なる地域課題の提案に留まらない、子どもたち自身が実行する地域活性化プロジェクトについて宮前氏（釧路校）により報告されました。そして、境氏（釧路校）からはへき地小規模校間で理科の観察・実験学習に必要な備品を共有するシステムの提案、佐伯氏（山口大）からは小規模校におけるICT活用の有効性が報告されました。これらの発表には、子どもたちの活き活きと学ぶ姿がみられました。学校における学習は、ややもすると「やらされ感」が強くなります。それに対して、自分ごととして挑んでいく学びの仕組みや仕かけ、環境整備として位置づけられる3者の研究にはさらなる深化が期待されます。

令和４年度日本教育大学協会研究集会プログラムより抜粋 ②

【第４分科会】B

へき地・小規模校教育

【司会】　花輪　大輔（北海道教育大学　准教授）
前田　賢次（北海道教育大学　准教授）

時 間	発表番号	発 表 題 目	発 表 者	所 属
13:00～13:20	408	現代の教育課題からとらえるへき地・小規模校教育研究の意義と可能性 －教育政策重点課題の観点から－	○玉井　康之 川前あゆみ	北海道教育大学　副学長 北海道教育大学釧路校　教授 へき地･小規模教育研究センター副センター長
13:20～13:40	409	極小規模校の廃校に関する調査報告 －北海道道南域の事例－	○阿部　二郎	北海道教育大学教職大学院　准教授

13:40～14:00	410	徳之島町の遠隔合同授業づくりに関わる教員の協働の成果と課題	○前田　賢次	北海道教育大学札幌校　准教授
14:00～14:20	411	フィンランドのへき地校における複式学級指導の実情	○伏木　久始	信州大学 教授 （フィンランド国立教育研究所・研究員）
14:20～15:20	（休　憩）			
15:20～15:40	412	へき地・小規模校における教育実践参観を通じた学生の省察と学びの特徴	○森下　孟 大畑　健二	信州大学教育学部　准教授 信州大学教育学部　准教授
15:40～16:00	413	過小規模校における令和の学び実践力向上のための教職科目開発	○村瀬　浩二 本山　貢 豊田　充崇 添田　久美子 南垣内　智宏	和歌山大学教育学部　教授 和歌山大学教育学部　教授 和歌山大学教育学部　教授 和歌山大学教育学部　教授 和歌山大学教育学部　教授
16:00～16:20	414	5年目を迎えた奈良教育大学の科目「山間地教育入門」のこれまでと「へき地教育・地域創生プログラム」の開設	○河本　大地 中澤　静男 板橋　孝幸	奈良教育大学社会科教育講座　准教授 奈良教育大学教育連携講座　教授 奈良教育大学学校教育講座　教授

第4分科会B へき地・小規模校教育をふりかえって

第4分科会B司会者

前田　賢次（北海道教育大学札幌校）

B分科会では本学のへき研センター関係者から三本の研究成果発表がありました。

我が国の社会状況をふまえ、へき地小規模校教育の実践と理念を現代の教育課題への手立てとして位置づける試み（北海道教育大学・玉井）、二つの事例をもとに、へき地極小規模校の閉校要因とその決定への過程の検証（同函館校・阿部）、極小規模校間の遠隔合同授業調査に向けた視点整理の報告（同札幌校・前田）をそれぞれ発表しました。またさらにフィンランドのへき地校の複式学級指導の特徴についても報告されました（信州大学・伏木）。

後半は教職大学院で実施された遠隔による複式授業参観とその省察の報告（信州大学・森下）、学部学生が体育科で遠隔授業開発の計画・実施・振り返りに取り組んだ報告（和歌山大学・村瀬）、2018年から「山間地教育入門」で、へき地複式小規模校をフイールドとして取り組んできたものを基礎にして、本年から選択必修科目を組み合わせた「へき地教育・地域創生プログラム」の取り組みの報告（奈良教育大学・河本）がありました。

本年度の分科会参加者は、昨年よりもかなり少なく残念でしたが、内容は充実したものになりました。

新型コロナ禍の影響によるさまざまな制約の中で、へき地小規模・複式校と教員養成教育をICTによってつなぐ試みが、各地で模索され展開されていることが印象的でした。

一方で、このような取り組みを、本学ではへき地校体験実習を教育課程に位置づけ、新型コロナ禍においても現地で対面により実施していることや、ICTでへき地校とつなぐ取り組みが当たり前になっていることに改めて気づかされたという驚きが、分科会に参加していた、へき地校体験実習実習を経験した学生の感想としてありました。